

## 高等学校芸術科書道における 「漢字仮名交じりの書」指導の研究

萩原 梓

### 1. はじめに

書道には臨書と創作という活動があり、それらには漢字・仮名・漢字仮名交じりの書という分野がある。高等学校芸術科書道での「漢字の書・仮名の書」という分野や、「臨書と創作」という学習スタイルにおいては、今まである程度の共通認識があり、標準的な指導方法も存在していた。

しかし、2003年度からの学習指導要領で、漢字仮名交じりの書が「書道Ⅰ」の「表現」領域で必修に据えられたことにより、その分野の指導のみならず、書道教育全体としても、授業・単元の構築や、指導方法を新たに構想し直す必要性があり、近年ではその研究も行なわれるようになっていく。

さらに、漢字・仮名・漢字仮名交じりの三分野の位置づけも、漢字仮名交じりの書が筆頭に置かれている。そのねらいは、「漢字仮名交じりの書」には古典となるようなお手本が無いことから、これまで「漢字の書・仮名の書」で行ってきたような臨書一辺倒の画一的な学習や形のための創作学習を排し、現代の国語表記を書表現の土台に置くことで生徒を古典の漢詩文や和歌などの素材から解放して、生徒自身の欲求に基づいた学習活動に導くことにある。

そのこと自体は社会的にも大変受け入れられやすい方向性であるし、書道に対する生徒の興味、関心も高まると思われる。漢字仮名交じりの書の学習は、現代の生活に密着した新しい書を生み出す活動である。しかし、問題や課題が多いことは明らかだ。そこで、これから先、全国の高等学校で一定水準の授業が実現することを目指し、「漢字仮名交じりの書」の学習をどのように展開していくことが効果的なのかを研究する必要がある。

また、漢字仮名交じりの書の学習によって、芸術的な感受や表現の工夫、

そして創造的な表現の技能、鑑賞の能力が一連的に結びついてくることを実証し、漢字仮名交じりの書の学習意義を主張していきたいと考える。

そのために、仮説を立て、授業実践を行ない、その実践を分析考察して、効果的な指導法を提案したい。なお、本稿は自身の修士論文から一部を引用し、加除修正してまとめたものである。

## 2. 研究内容

### 2.1 概要

まず、高等学校芸術科書道における「漢字仮名交じりの書」指導の歴史を追うため、戦後の昭和 26 年版からの指導要領の変遷や各年度の改訂の意図、書道教育をどう捉えているかの考察、現行の学習指導要領の考察と、現在の書道界での漢字仮名交じりの書の捉えられ方の考察をした。その結果、現代国語表記である漢字仮名交じり文が書表現の中心へと向かうことは当然であり、書道教育においても漢字仮名交じりの書が注目され、書道 I において必修に据えられることも当然の流れであると言えることが明らかになった。また、漢字仮名交じりの書は古典を基盤として展開されるべきという書道界での意趣が明らかになった。

次に、授業実践を行なうための仮説を立てるにあたり、先行指導の内容を考察した。参考文献は本研究において収集することのできた範囲であり、全国のすべての指導を網羅したものではないが、その限られたものを通覧しただけでも、学習指導要領の改訂に合わせて様々な方法が提案されていることがわかり、漢字仮名交じりの書の指導の傾向を見て取ることができた。またそこで目指されることやそこでの問題点が浮き彫りになった。本研究ではそれらを参考にした上で、新しい指導法を構想し、実践に望んだ。

授業実践の指導案は、漢字古典を鑑賞して特徴を捉え、その表現法を応用して作品を創作するという設定にした。教材の準備として、漢字の書を分析し、その特徴を明らかにした。特徴を明らかにすることは、漢字と仮名を調和させるのに必要な要素を把握することである。そしてその特徴を平仮名および漢字仮名交じり文に應用して創作の見本を作製し、授業時に提示した。また、二時間目の指導案は一時間目の結果を考慮して修正し、表現法に關しての的を絞ることを考え、字形の変化に着目した。字形を変化

させて作品を創作することの教材として、字形の応用用紙を作成し、授業時に活用した。

## 2.2 授業実践の結果

授業実践で得られた結果の一例として、実践において提示した資料の中から、生徒の作品に影響を与えたり変化をもたらしたりしたと考えられるものと、生徒の一時間目と二時間目の作品の変化を数点挙げる。

### ① 古典の特徴の応用

漢字古典を直観的・分析的に鑑賞し、特徴を捉えた。そして捉えた特徴を応用し、作品を創作した。

資料「礼器碑」



横画 : 平行に引く。数本のうち、主要な一本の横画はきれいに抜くような波磔。

縦画 : どの縦画もほぼ垂直に引く。

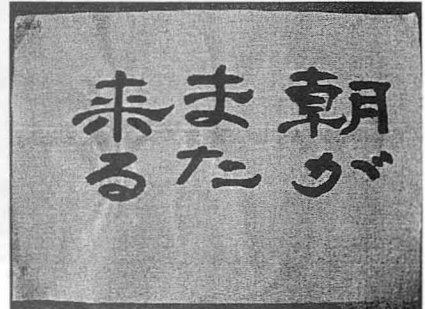
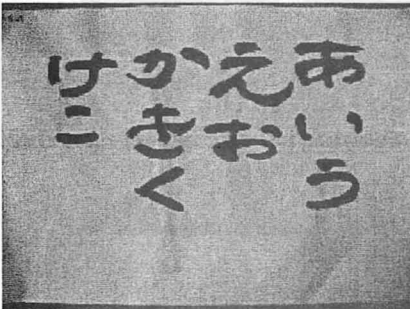
左払い : 左に押し出すように引く。

右払い : 横画の波磔と同じように、きれいに抜くような波磔。

細い線 : 線の太さは波磔の部分以外、ほぼ一定。

空間 : 線と線の間空間の幅はほぼ同じ。

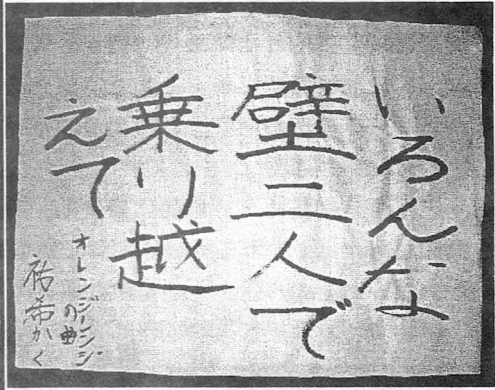
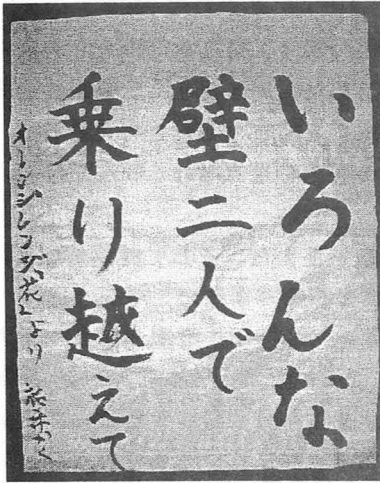
資料 礼器碑の特徴の応用例



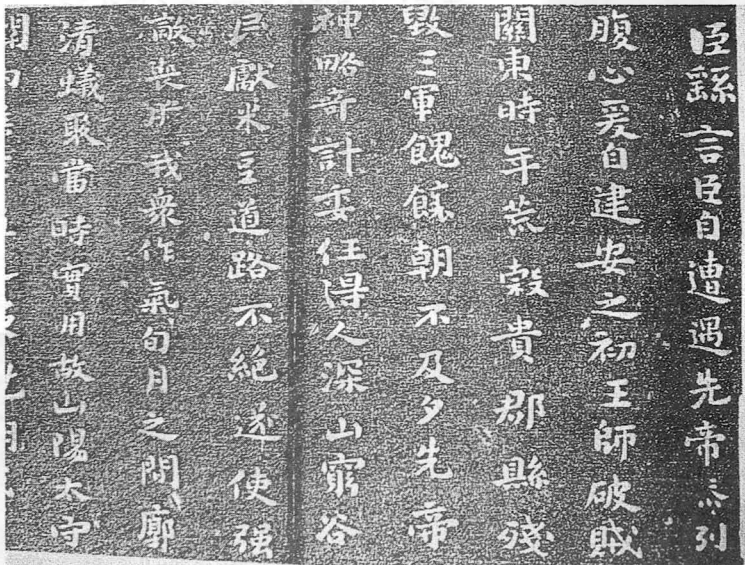
一時間目の創作作品

礼器碑の特徴を応用しようとした作品

(横長の字形,平坦な横画,一定の線の太さ)



資料「薦季直表」



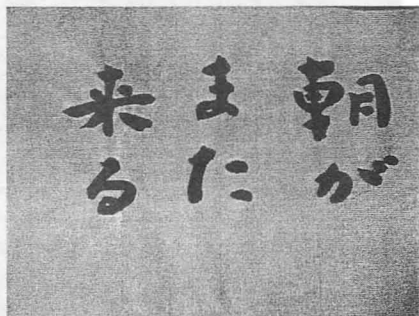
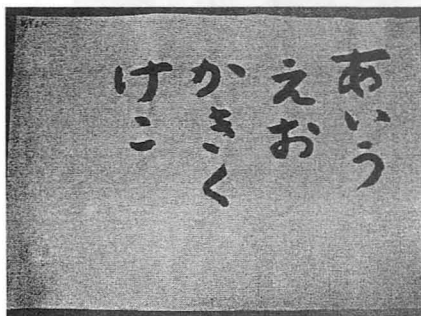
起筆 : 筆を置くように入筆する。

運筆 : 徐々に筆圧を加える。

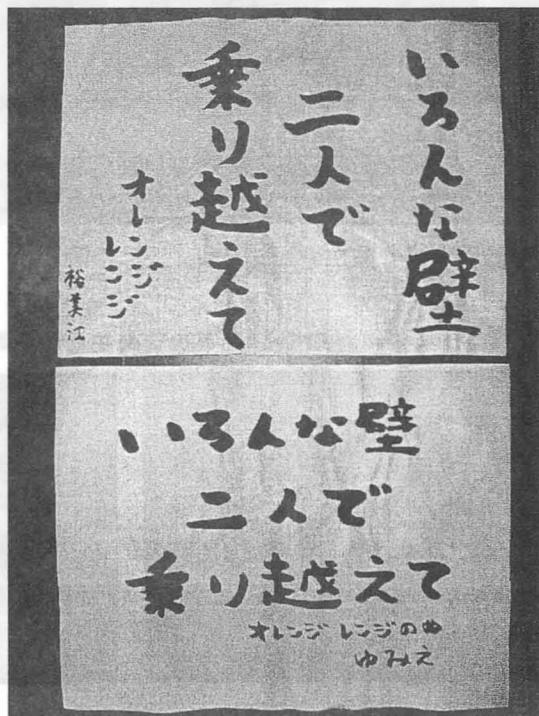
点　　：線を引くのではなく，筆を置くだけ。

短い線：全体的に線は短いが，時々横画に長い線を加える。

資料 薦季直表の特徴の応用例



一時間目の創作作品



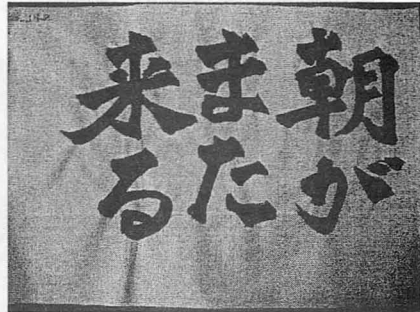
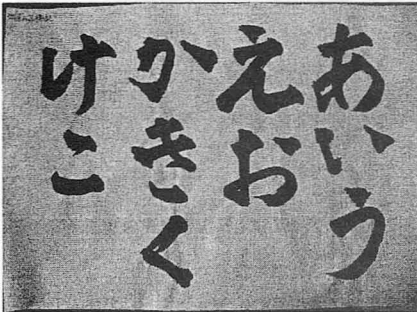
薦季直表の特徴を応用しようとした作品  
(柔らかい入筆，徐々に筆圧を加える運筆，短めの線)

資料「始平公造像記」

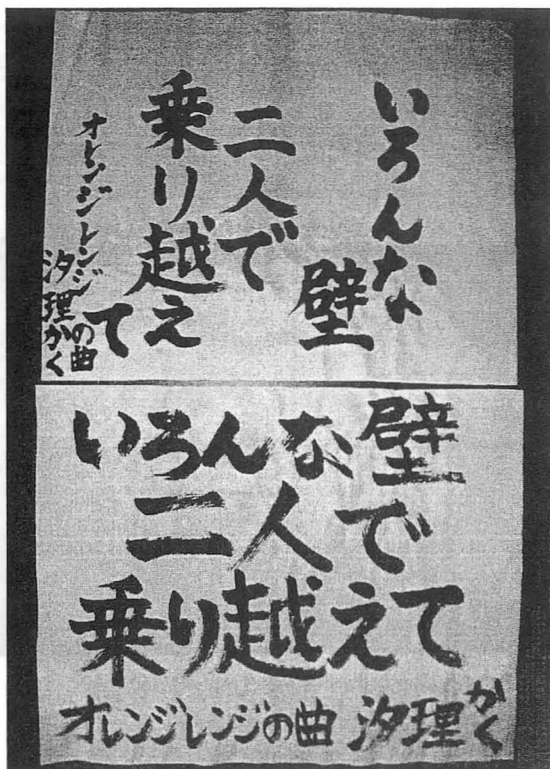


- 起筆 : 強く打ち込む。露鋒。
- 終筆 : 軽く突き上げるようにして筆を抜く。
- 字形 : 右肩上がり。
- 点 : 三角形に書く。
- 点画 : 筆を強く打ち直し、右下に少し下げる。
- 左払い : 太く筆圧を加えて抜く。

資料 始平公造像記の特徴の応用例



一時間目の創作作品



始平公造像記の特徴  
を応用しようとした  
作品

(力強い印象，勢い  
のある印象)

古典の直観的・分析的鑑賞を記入したプリントの分析から，ここに挙げた三点の古典は，高等学校一年生の段階でも，特徴を比較的捉えやすいという結果を得ることができた。

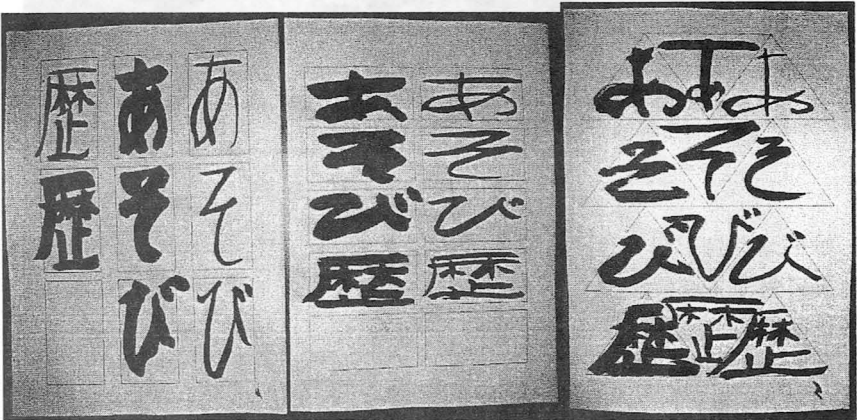
そして生徒の作品の変化は，鑑賞によって捉えた特徴を作品の表現に取り入れて工夫を試みた結果である。

漢字仮名交じりの書の導入段階は自由な発想と表現を行なうための準備の段階であるが，この結果から，この三点の古典を取り上げたことが適切であったと判断し，また，古典の鑑賞で特徴を捉え，その特徴を応用して作品を創作するという学習がその段階において有効であると判断する。

②字形の変化の応用

字形の応用用紙に文字を書き込み、字形を変化させるという経験をした。そしてその表現を応用し、作品を創作した。

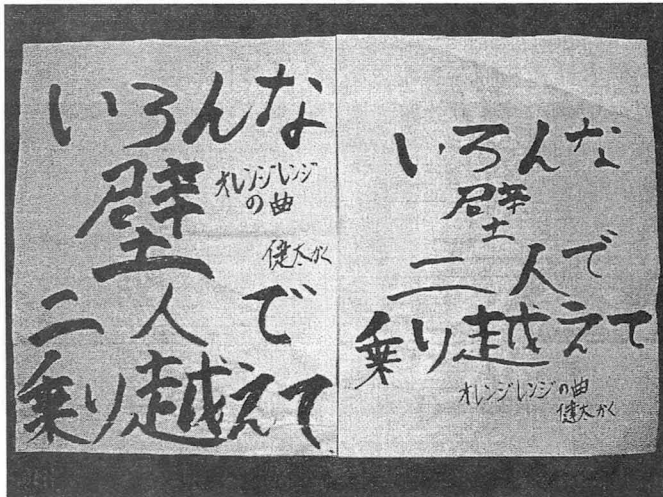
資料 応用用紙記入例



縦長の字形

横長の字形

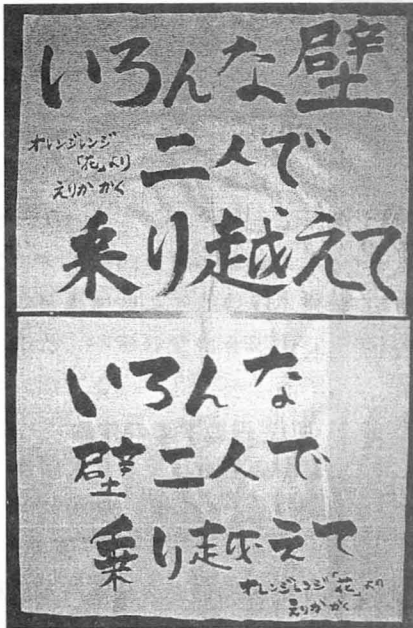
中列：逆三角の字形 上部大  
外列：三角の字形 下部大



左：一時間目の創作作品

右：逆三角の字形の作品  
(文字の上部が大きい)

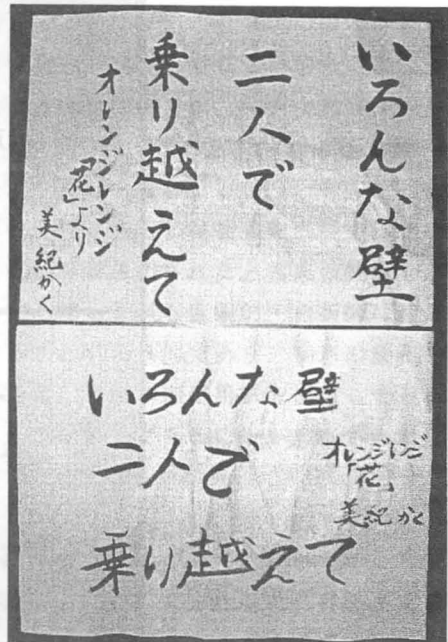




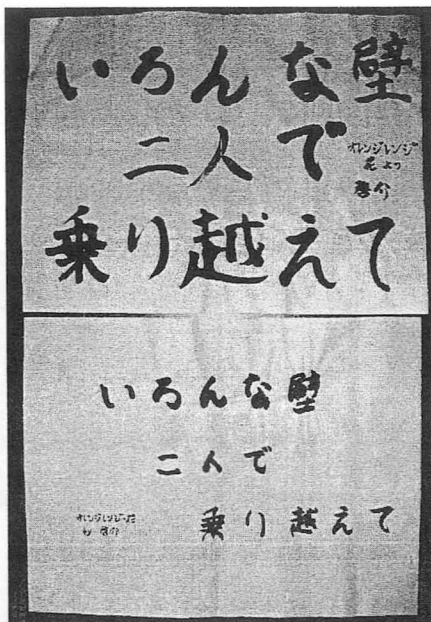
一時間目の創作作品

逆三角形の字形の作品  
(文字の上部が大きい)

一時間目の創作作品



変則三角形の字形の作品  
(文字の左部が大きい)



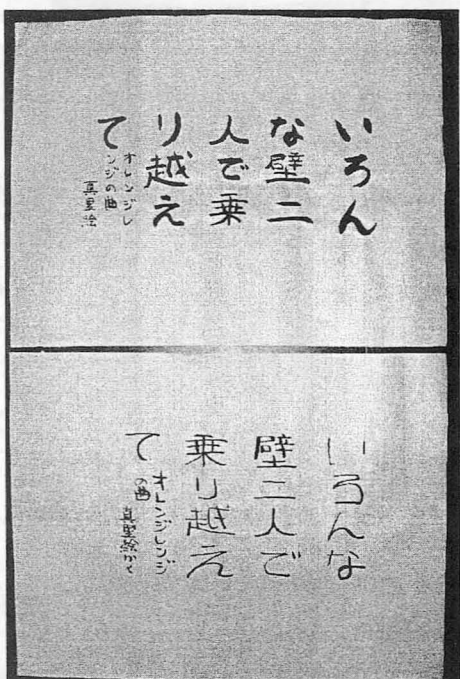
一時間目の創作作品

円の字形の作品



一時間目の創作作品

やや横長な字形



生徒には整正の美が正しいという価値観がある場合が多いため、一見稚拙に見える表現も芸術表現として存在するという理解させる必要があり、それには鑑賞という方法に加え、実際に体験することが効果的であると考へた。それに対し、字形の応用用紙を使用したところ、比較的容易に文字の外形を変化させることができるという結果を得られた。

そして、ここに見られる生徒の作品の変化は、応用用紙で体験した字形の変化を作品の表現に取り入れて工夫を試みた結果である。

この結果から、字形の応用用紙を使用することが効果的であったと判断し、また、字形の変化を応用して作品を創作するという学習が有効であったと判断する。

### 3. 本研究の成果と今後の課題

#### 3.1 成果

授業実践の結果を分析考察した結果、生徒の表現が主に書写的整正の美に基づくものであり、漢字仮名交じりの書の創作活動において自由な発想と表現を行なうための準備段階として、まず、これまでの書写的整正の美から離れるという思考の改革を行なう必要があることが明らかになった。

自由な発想と表現を行なうための準備段階では、様々な表現法を知ることが必要であることに対し、古典の特徴を応用するという学習が有効であると共に、これまでの書写的整正の美から離れるという思考の改革を行なう必要があることに対し、字形の変化を応用し稚拙美を表現するという学習を行なうことが効果的であることが導き出された。古典の特徴を応用するという学習では、数点の古典を比較しながら直観的・分析的に鑑賞して特徴を捉え、その特徴を応用することが効果的であり、字形の変化を応用し稚拙美を表現するという学習では、字形の応用用紙を使用して表現法を知り、その表現法を応用することが効果的であることが実証された。

#### 3.2 今後の課題

漢字仮名交じりの書には標準的指導が確立されていないため、今後も実践をしてその成果と課題を明らかにし、そしてまた新たに実践をするということを繰り返す中で、漢字の書・仮名の書のような、標準的指導を確立

していくことが必要である。

また、この分野を取り上げる時期・生徒の自由な表現に対しての指導基準・教材や資料の選定・何を基盤として学習を展開し、芸術としてどのような高まりを見せるか・題材として用いる語句や文字の価値をどのように考えながら精選していくか・中学校までの書写教育や、漢字や仮名の学習とどのように関連させていくか、という問題点について、研究を更に進める必要があるとともに、私自身、現場の状況をさらに知る必要がある。漢字仮名交じりの書を含め、芸術科書道の教育をより盛んなものへ導くことができるよう、指導の研究を重ね、自身の指導者としての能力を向上させるよう、努めていきたい。

#### 【参考文献】

- ・『改訂高等学校学習指導要領の展開 芸術科書道編』1990 明治図書 久米 公
- ・『顔真卿 建中告身帖』1961 清雅堂
- ・『季刊 墨スペシャル第9号 図説中国書道史』1991 株式会社芸術新聞社
- ・『高校書道教育4月号(創刊号)』1989 書道教育研究会
- ・『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編』1999 文部省
- ・『高等学校芸術科書道指導資料 指導計画の作成と学習指導の工夫』1992 文部省
- ・『昭和33年(1958)版 高等学校芸術科書道 指導書 理論編』1958 文部省
- ・『昭和49年(1974) 高等学校芸術科書道指導資料 表現編』1975 文部省
- ・『昭和56年(1981) 高等学校芸術科書道指導資料 鑑賞編』1981 文部省
- ・『昭和59年(1984) 高等学校芸術科書道指導資料 理論編』1984 文部省
- ・『書学体系 碑法帖篇 第9巻 礼器碑』1985 株式会社二玄社
- ・『書学体系 碑法帖篇 21巻 龍門二十品二』1985 株式会社二玄社
- ・『書学体系 碑法帖篇 31巻 顔真卿書』1985 株式会社二玄社
- ・『書写書道教育研究 第6号』1992 全国大学書写書道教育学会
- ・『書写書道教育研究 第10号』1996 全国大学書写書道教育学会
- ・『書写書道教育研究 第11号』1997 全国大学書写書道教育学会
- ・『書写書道教育研究 第12号』1998 全国大学書写書道教育学会
- ・『書写書道教育研究 第13号』1999 全国大学書写書道教育学会
- ・『書道技法講座(楷書) 薦季直表』1973 株式会社二玄社

- ・『墨 2001年 9, 10月号 通巻 152号』2001 株式会社芸術新聞社
- ・『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説 国語編』1999 文部省
- ・『中国石刻大観 書法篇』1992 株式会社同朋出版
- ・『中国石刻大観 資料篇二』1991 株式会社同朋出版
- ・『中国石刻大観 資料篇三』1991 株式会社同朋出版
- ・『中国石刻大観 資料篇四』1992 株式会社同朋出版
- ・『中国石刻大観 資料篇五』1992 株式会社同朋出版
- ・『中国石刻大観 資料篇六』1992 株式会社同朋出版
- ・『中国石刻大観 資料篇七』1992 株式会社同朋出版
- ・『中国法書ガイド5 礼器碑 後漢』1987 株式会社二玄社
- ・『中国法書ガイド20 龍門二十品・上 北魏』1988 株式会社二玄社
- ・『中国法書ガイド21 龍門二十品・下 北魏』1988 株式会社二玄社
- ・『中国法書選5 礼器碑 後漢』1987 株式会社二玄社
- ・『中国法書選31 九成宮醴泉銘 唐 欧陽詢』1987 株式会社二玄社
- ・『中国法書選32 孔子廟堂碑 唐 虞世南』1988 株式会社二玄社
- ・『長野県高等学校教育過程のてびき 芸術〈音楽・美術・工芸・書道〉編』長野県教育委員会
- ・『第35回全日本書写書道教育研究会秋田大会要項 第30回東北書写書道教育研究会大会要項』1994 第35回全日本書写書道教育研究会秋田大会
- ・『第40回全日本書写書道教育研究会埼玉大会 学習指導案集』1999 第40回全日本書写書道教育研究会埼玉大会
- ・『第24回全日本高等学校書道教育研究会 奈良大会集録』1999 第24回全日本高等学校書道教育研究会 奈良大会事務局
- ・『第25回全日本高等学校書道教育研究会』2000 長野大会集録』第25回全日本高等学校書道教育研究会 長野大会事務局
- ・『文部省告示 高等学校学習指導要領(平成11年3月)』1999 大蔵省印刷局
- ・石飛博光『石飛博光展』2001
- ・小野寺啓治 書道ジャーナル『2001書作品年鑑 特集・130人による現代書10年の動き 1991—2000』2003
- ・田宮文平『「現代の書」の検証』2004 芸術新聞社

(おぎはら あずさ 2005年度大学院修了)